

1. 知ること

今回の講義のリアクションペーパーについて、あまり多くのコメントは必要ないと思います。

核と人類の共存を「核と人類の共存」と湯川教授の仰。でしたかとも、思いました。と感じた。

私も森先生が考へたことに同じように、まずは多くの人が核兵器のおそろしさを知ってもらうということが大切だと思います。

あの有名な科学者、アインシュタインが自分の発明したものを後から、涙を流した人を知ることが。

アインシュタインの理論が核のエネルギーの根拠になっている、ということに加え、アインシュタインには、もう一つの負い目があったと思います。それは、彼がナチスドイツが原爆を作る前に、アメリカが作るべきだとアメリカ大統領に進言したことです。

この点は補足します。

科学者の人たちにも責任はあるけど、無知のまま、物事が起こってから真相を知る私たちにも十分に責任があるのだと知って怖くなった。

研究者が自分の研究対象の力を知らずに研究していた事実には呆れを感じました。

科学者にはもっと責任を感じてほしいと思いました。

原爆を完成させて喜び科学者の話を聞いておかし。と思。たがたいては原爆について知らない自分がいて、何にも又何言えないな。と思。た。

最終講では改めて科学者について考えてみましょう。

ビデオを観て科学者のせいだけではないと思った。

原爆事故があった時、「原爆」なんて作らなければ良かったのに。何かあったときどうするか考えたら作らなければ良かったと思。たが、原爆を作ったのは誰なのか。責任は誰にあるのかと考えるとほろりと答へられないなと思。た。

人間は様々な便利なものを生みだし、開発する力があつた。人間のかほすごいと思うが、それによって無条件的には人間が苦しむことになることがあるんだと知りました。

原爆に限らず、国の失敗の責任は、日本をにぎり政治腐敗を信じた自分たちであるということ。それと、その責任は自分たちの無責任にあるということ。

何のためにしてあ原爆が作られたのか、あるのかを考えたら自分たちのためということがわかったら少しは考えが変わるんじゃないかなと思。いました。

日本の核を料がないという行動は非常に無防備なのかも知れないが、一番強い考えの元でできている。ま固いものだと思。う。という考え方は、実は、最も勇気がいる考え方ではないでしょうか。武装して自分を守るのは、逆に、勇気の無さの表れだと私は思います。

平和ボケとか、甘い考え、という指摘もある(核を含む)非武装

2. この講義について

物理学は若手だったけど、自分達の生活の中の様々な部分でかかっていることに気づいたりして、この物理学の授業を通して新しい発見がたくさんあったのよかったです。

発見が沢山あったとのこと。とても良かったです。

第14講の隠れテーマは「知らなければならぬ」です。そのため、講義の

今回の授業の前に先週もらったプリントをやったので理解しやすかった

初めの頃から、勉強の仕方についてコメント

してきました。リアクションペーパーにいいこと書いてもらったので、ここで追加します。あらかじめ勉強しておく、学習効率は高くなります。是非、予習しておきましょう！

3. 私たちの責任

「難しいことは専門家に任せよう」
その通りだと思った。

原発も核も人間が生きて暮らすための利便性を利用している一部の人間に
大きな責任があったと改めて感じました。

私も知らず知らずのうちに「知らないことを知らないで済ませよう」

ふいふいでは「ふいふい」思いました。無知は罪ではない。無知は罪ではない。無知は罪ではない。無知は罪ではない。

無知は罪ではない。無知は罪ではない。無知は罪ではない。無知は罪ではない。

良い点も悪い点も存在する。その両方を知らねば、正しい判断を下すことはできない。

個人的には、こうしたコメントを書ける皆さんが、これから社会で活躍すれば、世の中がどんどん良くなっていくと思っています。

世界の状況では、核の責任は私達一人一人にあるわけではない。

無知の判断は責任を曖昧にするために、正しい判断をするために勉強をします。

私は歴史的背景もなければ、核も知らないで済ませよう。

今回の授業で湯川さんの考えを受け、

知らないことを知ることも大切なことだと分りました。

勉強もまず始めは、やはり興味を持つことが大事だと思う。しかし、情報の必要

不必要を自ら選別してはいけない、ということも今回の授業を受けて考えた。

これからも善悪のことで考える機会があると思います。深く深く多様な視点で物事を見るために、僕は勉強をしたいと思います。

この授業を受けてあらためて、無知ということに本当にシビアに思っています。私たちが

とていないために、勉強することの意味について考えるせられたい。

私は仕事は物理学をとり、20人のうちの1人ですが、これから「理解者」「知者」のために、どの分野でも学ばなければいけない

ということも、感じました。

人類が生みだしてきた科学や物理は、私たちの生活も豊かに

にするのか、という問題を真実に考えさせられる授業だった。

原発を残すかという問題にも私はあった方が良く思っていました。

日本には他の方法でのエネルギー供給が不十分だからです。

しかし、今回のビデオをみてよく分からなくなってしまいました。

どちらにするか、みんなで決めていきましょう。その時に色々な事を知っておかなければ正しい判断ができないことを忘れないようにしましょう！

自分のする事、した事について責任を持つことの重さを知りました。

今日の講義をうけて、自分の人生を悔いなくなりました。ごめんなさい、泣きもなくなりました。

私自身も、実は、泣きたい気持ちで毎年この回の講義をしています。でも、泣いてもしょうがありません。

みんな掛け替えのない、大切な人生を送ってきたはずです。それを否定することはできません。

これからこの人生の中でできることをしていきましょう！私はこの講義をすることが役割の一つだと思っています。

4. 身近になる最新技術

iPS細胞が去年発見されたが、これは、医療が進歩したの
は明らかである。しかし、クローンを作り出せる可能性も上がった
ということである。

iPS細胞で倫理や神への冒とくなど言っている人がいる。
しかし、今はその様な事を言っている場合ではない。

iPS細胞を作った山中教授のコメントを聞いて、先生は
自分で作ったなら責任もって怖いと言ったと言いましたが、

確かにそうだと、色々な問題がある iPS 細胞の側面がある

クローンだけをとってそう言うのはちがうんじゃないかなと思いました。

とても、すごいと思うが、世の中はそれを悲しんで
いる人も少なくない。その中で iPS 細胞は、
どのように進化していくのかとても気になる。

キメラが現実存在しているのに驚いた。

もし実際にキメラのような色々な遺伝子を混ぜた生物を作り出すことが可能に
なったりどうなってしまうのか不安な気持ちとどこか楽しみな気持ちがあります。

私たちの生活を豊かにするも
のは、人を傷つける物としても
使えます。ナイフも自動車も、
3Dプリンタも…。

先生の言った「兎言がなくてもライフを作る事ができる」という
言葉に衝撃を受けた。ほんと怖い時代ほんとに感じてた。
最後には、人間が作ったもので人類が滅んでしまうのではな
いか。今回の授業はとても考えさせられる授業だった。

学ぶこと 発見すること はすばらしいことですが、いつか 傷つける
という言葉では片付けられないほどの、悲しいことがおこる
可能性があると思います。

人間ってそれ以上に怖いと思います。

私たち自身が勉強して、自分たちで
コントロールする以外の解決策はない
と思っています。

そんな危険な物を、売っていて、日本は大丈夫なのではないか？

身近な動具で兵器が作れる時代は、不安を覚えました。しかし、だから
こそ私は、知識を身につけ、その事に責任を持たなければならないと思いました。

間違っているのは人間の使い方です。だからこそ、私は政治が大好きです。

正しいを問わね、ただ利益のための人だけです。

まず、政治に対して、私たちに責任があることを自覚すべきです。どんな国の為政者も、国民の意思を
全く無視して政治を行うことはできません。それは歴史も証明しています。私たち自身に政治をコント
ロールする力（ちから）と責任があるはず。次に、話は政治だけでは閉じなくなった時代を迎えている
ことを理解しなければなりません。身近な技術で人を傷つけることができるようになってきました。これ
は、アルカイダのような、国家組織ではない武力集団があちこちに誕生していることと無関係ではあり
ません。私たち自身に、人を傷つける能力が以前よりも高まっていることを認識すべきだと私は思います。
私たち自身が、何を学んでそれをどう活かすか、何を使ってどう活用するか、それが問われていると思
います。

まず、テレビ番組は往々に
して発言者の意図が間違っ
て伝わるので、私が誤解して
いる部分もあるかもしれません。
しかし、あの番組を見た範囲
では、iPS細胞を基に、自分
の研究室で、自分の研究とし
てクローンを作っています。
それを自分で恐いというのは、
私は納得できません。

しかし、指摘したいのはそこではな
く、一度技術が開発されると、開発者
の意図を離れて用途が広がっていく点
にあります。もちろん、医療に貢献は
あるでしょう。しかし、その進化をコ
ントロールするのが、一部の科学者だ
けだとしたら…。

歴史に学んで、私たち自身が良く勉強して考え
なければならぬのではないのでしょうか。

キメラ（キマイラじゃありません）については、
動物に臓器を作らせる研究として行われています。
しかし、もしも皆さんの中に、「どこか楽しみ」
と思う人がいるなら、科
学者も同じ人間ですから
楽しみで作る人もいるで
しょうね。